

令和5年10月18日

各 位

保育所統合に関するアンケートのお願い

南部町では、南部町立「つくし保育園」と「さくら保育園」を統合し、公立保育所から社会福祉法人伯耆の国(2園の指定管理者)が運営する私立保育所に移管することを計画しています。町は伯耆の国と法律に基づく公私連携協定を締結し、民間移管後も運営に関与し、適正な保育が提供できるようにいたします。

統合してできる新園の建設地は、町執行部としては、裏面地図の3候補地のうちのC案が最適であると判断したところですが、執行部の判断とは違いB案が最適であるとする意見も出ています。

そこで、保育所の直接の受益者である保護者の皆様、これから保護者になられると思われる皆様に町の考えをお示しし、それに対するご意見をお聞きし施策に反映させたいと考えアンケートをお願いするものです。

お手数ですが、別紙回答書を10月31日までに提出していただきますようご協力をお願いします。

【移転・統合の考え方】

「つくし保育園」「さくら保育園」は老朽化が進んでおり大規模改修や建替えが必要ですが、「つくし保育園」は浸水深が2mを超え、避難路の確保も難しい立地にあります。このため、「つくし保育園」は移転することとし、子どもの数が減少していく将来予測を考慮して「つくし保育園」と比較的距離が近い「さくら保育園」を統合しようとするものです。

【3候補地選定】

両園の立地バランスを考慮した上で、学識者、保護者、保育関係者等に参加いただいた「子ども・子育て会議」「保育所あり方検討委員会」からのご意見をもとに、地形や法規制、実現性などを検討し町執行部が絞り込みました。

【C案が最適とする町執行部の視点と評価】

1 災害や交通事故のリスクが低いこと

両園を含むこの地域は浸水域と山がほとんどで、浸水域は土地の嵩上げ、山は切り崩しが必要となります。その中であってC案は、少し高台ですので地形を大きく変えなくても浸水被害の心配がありません。土砂災害警戒区域が隣接しますが園地への直接の影響はありません。

また、園は県道から少し入ったところにありますので、園周辺での交通事故のリスクは低いと考えます。

2 里山で遊べ、子どもたちの遊びや学びの場として適していること

C案は山や林、畑、寺社が近接しており自然・体験素材に恵まれているため、自然や文化に日常的に親しむ保育が期待できます。また、民家に近く人に見守られる環境にあります。近すぎるという意見もありますが集落説明会では好意的でした。

3 保護者が安全に通いやすい場所であること

バイパス沿いが便利だという意見もありますが、C案も県道と近接しており、車尾方面、岸本方面のアクセスは良いと考えます。また、バイパスに比べて交通量が少なく車の走行速度も遅いため安全性は良いと考えます。

4 広さや騒音など安定した育ちに適した場所であること

県道から少し入った閑静な場所にありますので、大型車両の走行による騒音や走行車や歩行者からの視線を気にしなくてもよい環境にあります。

【B案が最適とする主な意見】

- B案は開けた場所であり近隣地帯に発展の可能性がある
- B案はバイパス沿いなので保護者にとって送迎が便利だが、C案はバイパスから離れている
- 周りが開けており大山が見え眺望がよい

【お問い合わせ先】 南部町子育て支援課 電話 66-5525 [メール kosodate@town.nanbu.tottori.jp](mailto:kosodate@town.nanbu.tottori.jp)

町長メッセージ動画はこちら⇒